

令和の幸手スタンダード授業5 with GIGA

—子供たちの学びの姿を見取り、確かな力を育成する—

主体的・対話的で深い学びを実現する授業
～ゴールを明確にしてブラッシュアップ～



個別最適な学び・協働的な学びを実現する授業
～ICTの強みを活かして学びの質を高める～

I

『学ぶ準備はできているか』 ⇒ 学ぶ意欲を高める

- 学ぶ気構え・心構えをつくることで、本気で授業に臨むようにする。
(授業に向かう『挨拶』、『姿勢』、『学習の用意』等)



II

『何を学んでいるのか』 ⇒ 課題や見通しをもたせる

- 『問い合わせる力』を高め、子供が自ら学習課題を設定できるようにする。
- 対話によって協働を生み、思考を深める。
- 子供が自ら、学習課題を追究できるようにする。



III

『問題・課題をどう解決していくのか』 ⇒ ひとりで・みんなと・先生に

- 多様な形態 (一人、ペア、グループ 等) で、思考を深める。
- 多様な方法 (話し合い、既習事項を活かす 等) で、考えを繋ぎ、紡ぎ、学びの輪を全体に広げられるようにする。



IV

『何が解り、できるようになったのか』 ⇒ 目標から達成度を押さえる

- 子供が自ら、分かったことをまとめられるようにする。



V

『何を、どのように学んだか』 ⇒ 自分の取組を振り返り、次に生かす

- 子供が自ら、学びを自覚化できるようにする。



最低 5 分！

定着・発展

探究学習 ~「みんなで同じことを同じように」からの脱却~

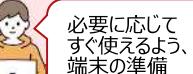
- 自分なりの問い合わせ立て、やり方、答えを引き出すようにする。
- 先生や仲間の的確なフィードバックを行うようにする。
- 教師は、「探究」のサポート、ガイド役に徹する。



学習ログの確認や映像提示で、子供の意欲喚起に活かせる

- 例) Teams → ファイル → 単元を通して 1 つのデータに全員の振り返りを入力 → 導入時に提示

例) 大型提示装置に教師用端末の映像を一斉提示



子供一人一人の考えを収集、整理・分析できる

- 例) オクリンク → カード (ワークシート) 画像・動画・ファイル・WEBリンクを貼り付けて 1 枚のワークシートを作成

例) Forms → アンケート集約 → 全児童生徒の考えを集約・提示

音声・画像・データを繰り返し見 (聞き) 返せる

- 例) オクリンク → LIVEモニタリング → 子供の状況把握 → ヒントカードを個別に送信

例) ムーブノート → テンプレート → 思考ツールを使った課題解決

従来よりも広い範囲に対し、時間を問わず提示できる

- 例) オクリンク → カード → 書き込んだカードを提出 → 全体で画面共有
- 例) ムーブノート → ひろば → グループ毎にひろばを作成し、グループで自由にカードを動かしながら意見をまとめる

データを蓄積でき、教師の見取りや評価に活かせる

- 例) ムーブノート → 深い学び → 友達のカードをもとに、自己の変容を認知
- 例) ムーブノート → キーワード集計 → 振り返りを書かせて、狙ったキーワードを集計し評価

家庭学習 ~指導の個別化と学習の個性化~

- 授業で学んだことを定着・活用できるようにする。(ドリルパーク)
- 各々の特性・学習到達度に応じた課題を提示する。
- 各々が興味・関心のある内容にも取り組ませる。



“教師の凡児徹底” 誰一人取り残さない授業の土台 (教師の関わり方・授業づくり)

子供との関わりを深める『はひふへほ』

は：話し上手・言葉にこだわる (言語環境)

ひ：引き出し上手 (子供の話を傾聴する)

ふ：ふれあい上手 (子供に寄り添う)

へ：変身上手 (子供のために演じる)

ほ：ほめ上手 (効果的に喜びを伝える)

子供たちが生き生きと学ぶ授業づくりの前提

● 信頼関係に基づく学級づくり (肯定的・共感的な人間関係づくり)

● 学習規律の浸透 (話し方、聴き方、学習用具等)

● 本単元・題材・本時を通じた「何ができるようになるか」の確認

● 教材・教具の工夫 (教師間・異校種間での連携、指導の系統等)

● 既習事項と、その定着状況の把握 (全国・県学調、レディネステスト等)

2nd GIGAの『キーワード』

● タブレットをフル活用 (マストアイテムとしての文房具)

● クラウド活用を前提として学びを自己調整

● 児童生徒一人一人が主語の複線型の学び

